

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311



金魚

竹本 久子 作

をやの思いをにをいかけ、

うちうち

内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

『感謝 よろび ひのきしん』  
第五〇回こどもおちばがえり

7月26日、本部月次祭終了後より10日間にわたって繰り広げられた「第50回こどもおちばがえり」は、29万を超える帰参加者を数え、親里は喜びに満ちた笑顔と歓声であふれた。

笠岡詰所では、宿泊者は1,500人を超え、期間中を通じ賑わいをみせた。7月28日・30日・8月1日の3回、模擬店を開催し、帰り集ったこどもたちを大いに楽しませた。

また、笠岡団では、帰参加者全員にうちわを、こどもたちには、筆記具(替え芯)を添えて贈呈した。

引率してくださった各教会の方々、詰所で受け入れひのきしんに励まれた方々……、皆様方のご尽力のお陰で、記念すべき第50回のこどもおちばがえりも無事終わることができました。ありがとうございました。

楽しかった！

芦常分教会 原 綾 乃

私は、小学校一年生の時からおちばがえりに参加させていたでいます。なので、今年には六回目です。鼓笛隊でも、参加させていたでいるのですが、鼓笛隊で参加するの

は、五回目です。今、私がやっているパートはキーボードです。でも、私は、体が細いのでキーボードを持つと、肩や、背中がとてもいたくなりますが、こどもおちばがえりの鼓笛のパレードに参加するためには、練習をいっぱいしなければなりません。練習はきついけど、楽しい事もいっぱいあります。楽しい事は、学校以外の人と友達になれる事や、練習の後の、おやつが楽しみです。また、合宿があり、昼間は、練習で

夜はお楽しみ行事を、スタッフの人がいろいろ遊びを考えて楽しませてくれます。だから、がんばろうと思いたでいます。こどもおちばがえりは、三泊四日で、電車で行きます。福山を九時ごろ出発し、四時三十分ごろ天理につきます。電車の中でずっと居るのでおやつをいっぱい持たていきます。京都をすぎると、鼓笛隊員は衣しようにきがえて、天理駅につくと、すぐ、バスに乗ってつめ所に行きみんなをむかえるえんそうをしました。



模擬店に興じるこどもたち

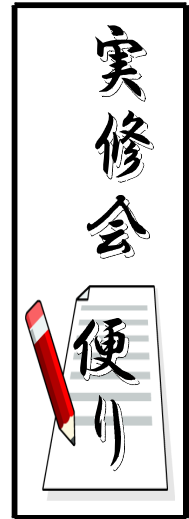
次の日、おそなえんそうにさんかさせていたでいき、パレードのしん査に出ます。きん張して毎年しんさの前、ドキドキします。本番が来て、前よりすぐドキドキしました。でも、しせいをよくして、横・縦の列をあわせるようになんはりました。なっ、なんとしん査の結果、金賞でした。『やったー。二年連続金賞だー。』来年も金賞がとれるように、一年間がんばろうと思いたでいます。

三日目は、土持ちひのきしんをさせていたできました。次は、バライティ一六六を見てとても楽しかったです。次は、カレーを食べたり、お買い物をし、おみたげを買いたでました。つめ所に帰り夜はお楽しみ行事で、鼓笛隊員は、えんそうをしました。その後、ビンゴゲームをしました。毎年毎年とても楽しいので、これからもおちばがえりに参加させていたでいます。

たでいたでいます。今度、は、友達と行けたらいいな、と思いたでいます。



土持ちを楽しむこどもたち



## 要員勉強会のつもりで

眞府分教会長 高田 弘之

「若い頃から、匂いがけ・おたすけに歩く時、おふでさき」を拝読し、持参して歩かせて頂いておりました。おふでさきは布教のエネルギーでありました。

今回実修会の要員をつとめさせて頂くに当たり、自分にとって「おかささげ」とは何なのか、と問いかけてみました。「誠の心と言えば、一寸には弱いように皆思うなれど、誠より堅き長きものは無い。誠一つが天の理。天の理なれば直ぐと受け取る直ぐと返すが一つの理。よく聞き分け。」と、全く匂いがかからず沈んでいた時、このおことばが心をなごませてくれました。眞実誠の心さえあれば、存命の教祖がきつとお働き下さる。と、自らに言い聞かせておりました。自分の信仰を確かめ、深めさせて頂くのが「おかささげ」でありました。

六月二十九日、高信正人要員の軽快なハン

ドルさばきで、初めて稲倉分教会へ御縁を頂き、参拝させて頂きました。若い人達は青年会の伏せ込みひのきしんに出ている、との事でしたが、三十名余りの方々と共に、十時開講。高信要員より、父の出直しを通しての信仰感話を話して頂いた後、「私にとって、おかささげとは」のテーマで話させて頂きました。おさづけの拝戴日は？あなたにとっておかささげとは？等の質問にも、整然とお答え下さり、質問させて頂いた自分が、感激致しておりました。

十一時から昼まで、二人一組で、匂いがけ実修に出させて頂き、先方から話を引き出す工夫をさせて頂くべく「お話し、聞かせて下さい」と話しかけてはどうですか、等と言いながら歩かせて頂きました。教会に帰って昼食を頂きながら、座談、雑談と、有意義に過ごすことができました。

先々代、先代の厳しい信仰があつて、今日がある、としみじみ話して下さったご婦人。又、妻の身上を通して助け合う心が深まり、毎日夫の帰宅を玄関で「お帰りなさい」のあいさつが続いている、という心温まるお話を聞かせて頂き、午後二時過ぎ、まるで要員の勉強会をさせて頂いた喜び一杯で、教会を後にしました。稲倉の皆様、どうもありがとうございました。

## にをいがけ・おたすけ実修会

福勇分教会長 鳥井 利昭

今から十年前の平成五年、教祖百十年祭三年千日活動一年目の年であり、笠岡大教会の上では、布教開始百周年を来年迎えるという実動の真つ最中の年でありました。

よふぼく勉強会の派遣要員として、数ヶ所の教会へ行かせて頂きましたが、その内の某教会へ、又今回、にをいがけ・おたすけ実修会の要員として行かせて頂きました。

十年前と同じような事ではいかんと思い、自分なりに勉強しておこうと、早くから心づもりはあったのですが、なか／＼バタ／＼して、思うようには行きませんでした。今回は、参加者の中に若い学生会の年齢層の人達が四人もおられ、平均年齢が十年前と比べると、かなり低くなっていました。若い時からお道の信仰の話を聞かせて頂きながら、実修会へも参加して実動していると言う事は、素晴らしいことであり、ありがたいことだあと、思わせて頂きました。

教会の子供達も参加して、勇んで頑張っておられる姿がよく伝わってきますが、又、次の十年後、どの様な姿になっているかが楽しみです。

# 恵陽分教会に出向して

天場山分教会 仙田 公男

数年前、同じような実修会があったが、その時私は、いづれも会長さんとペアだったので、人前で話をする事もなく、気楽につとめさせて頂いた。だが、この度は、一人で行かなければならない。ましてや、話の内容が「おかささげ」である。この事は、私の頭を非常に悩ます問題だった。

恵陽に出向する六日前、我が教会でも実修会を開催したが、信者さんたちの反応は、「難しかった」とか、「眠くなった」とかいうものであったからだ。先方の会長さんとは、一時間の話という打ち合わせだったので、何とか一時間聞いてもらえるように話の内容を考えて臨んだ。しかし、自分の体験談とか意見なども入れて話をさせてもらったが、やはり皆さん退屈そうにしておられた。「経験豊富な先生ならば、もっと上手に話されるだろう。」と思いつつも、自分の力不足なのだから、致し方あるまい。その中でも、会長さんご夫妻は、私の話をメモまでとって熱心に聞いて下さった。これが唯一の救いである。

続いて、にをいがけには、教会の奥さんと

いつしよに、商店街を歩かせて頂いた。私は、普段にをいがけをする時は、住宅街を歩いている。商店街では仕事の人ばかりなので、訪問しても嫌われると思うからだ。けれども奥さんは、店員さんや工場で働く人などに熱心に声をかけておられた。「この人は普段からよく歩いているんだなあ。」と感心をし、同時に家を選び好みしている自分を恥じた。それに考えようによっては、商店街の方が住宅街より留守の可能性が低いので、効率が良いのかも知れない。効率ばかり考えても行けないが、やはり、「真実を運ぶ」という姿勢が大切なのだろう。

最後に、ねりあいの時間では、質問は全くなく、数人の方が少し発言される程度だった。我が教会で実施した時も、先生が一人でしたべっておられたので、奥ゆかしいのは島根県人の特許というわけでもなさそう。最も「質問しようにも、何を話したらいいのかさえない。」というのが本音なのかも知れない。「ねりあいの司会というのも難しいものだなあ。」というのが正直な感想である。

私としては、「この行事を打ち上げ花火のように一回限りで終わらせるのではなく、定期的に、これからもにをいがけを続けていって下さい。」というのが精一杯であった。

## 学生の集い

日時 9月23日(火)

## 第79回天理教青年会総会

### 総会式典

日時 10月27日(月) 午前10時  
場所 本部中庭

### 前夜祭

日時 10月26日(日) 夕づとめ後  
場所 東西泉水プール前広場

# 立教166年 全教一斉にをいがけデー

にをいがけは、教会、地域、よふぼくの日常的な信仰活動です。

日々、人の幸せを願い、コツコツ積み重ねる一人ひとりの努力、更には、全支部布教日設定によるにをいがけ活動、その動きを一手一つに結集し社会に向けて全教が拳って力強く信仰の喜びを伝え、次なる歩みにつなげていく、これが全教一斉にをいがけデーです。

教祖120年祭に向け、「全家庭へにをいがけ」を目標に、教会、地域を問わず、勇んで掛からせて頂きましょう。

《 期 日 》

9月1日～30日

笠岡大教会布教強調月間

9月28日、29日、30日

一 斉 活 動 日

《 内 容 》

戸別訪問、リーフレット、チラシを配布。

(出来れば、2人1組で、手渡し、声掛け)

《 報 告 》

参加者数を支部へ報告、教会で参加者名簿の作成をお願いします。

## ・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後 (800字～1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

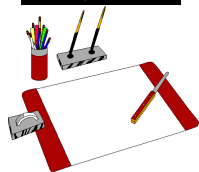
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便 : 〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X : 0865-66-1314

電子メール : [kasaokazaki@rio.odn.ne.jp](mailto:kasaokazaki@rio.odn.ne.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。





## 私とおぢば

七四六期 村川 直子

私は去年の十一月まで老人福祉施設で介護福祉士として働いていました。去年の秋に腰椎椎間板ヘルニアという身上を頂き、初めは仕事をしていたからヘルニアになったんだと思っていました。でも仕事を辞め色々考えているうちに、仕事をしていながら身上を頂いたのではないと思うようになりました、今までの自分の心使いや、信仰に対する思いを考えるようになり、修養科へ行かせて頂くこうと思っていたのですが、どうしても働きたくて修養科に行く事を先延ばししていました。ただなかなか仕事もなく悩んでいると、母親が「神さんがおぢばへ帰っておいでって言うとなんよ」と言ったのがきっかけで修養科へ参加しました。

久しぶりに帰ってきたおぢばはなんだか懐かしく神殿の中にはいると今まで考えていた事、全て忘れ神さんとじっくり深く、長くお話しする事ができ「あー本当におぢばに帰ってきたんだなー」と体で実感しました。

修養科生活も授業では教典、教祖伝、みかぐらうた等、お道の勉強をさせて頂いています。朝の神殿掃除も一番早い時で三時起床で、眠い目をこすりながら神殿掃除をさせて頂いています。朝の神殿掃除が終わった頃に夜が明けていて言葉では言い表すことのできないくらいキレイな景色です。授業は講師の先生が分かりやすく興味が湧くように話をしてくださるので、もっとお道の事を知りたいなと言っ思いいになります。ひのきしんでは一般人は入れないという御守所という一番かんろ台に近い所でひのきしんをさせて頂いています。

おぢばでの生活やクラスとの人達とも慣れてきた二ヵ月目に、色んな身上や事情を神さんが見せてくれ、体力的にも、精神的にも辛くてしんどかったけど神さんから与えられた壁を乗り越えられるようみんなと一手一つになるという事をこの修養科で改めて学んだ気がします。

七月の後半から始まる子供おぢばがえりもあり、おぢばに帰って来てくださった方全員に喜んで帰ってもらえるよう、そして、思い出に残るよう修養科生全員で一致団結してお話をさせて頂きました。おぢばに帰ってきた子供達の目はキラキラ輝いていて、笑顔がとても印象深く忘れれる事ができません。

おぢばに帰ってきて気づいた事、気づか

れた事、沢山あります。おぢばは、本当に自分と真っ正面に向き合える最高の場所だと私は思っています。

今年から三年千日と言われている旬に、おぢばへお引き寄せくださった事や沢山の人達と出会わせてくれた事に、そして今、生かされている事にありがとうと沢山々言いたいです。教祖百二十年祭に向けて一人でも多く人にお道の素晴らしさを伝えていけるよう一用木として、神さんの御用を一生懸命、つとめさせて頂こうと思っています。

## 計報

矢田全一氏

八尋分教会六代会長

六月二十九日出直されました。

享年 七十三歳

### 訂正とお詫び

『かさおか』立教166年7月号(先月号)のページ見出しが「第42巻 第12号」となっておりましたが、「第42巻 第7号」の誤りでした。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

# 談話室



## 消えた癌

甲井分教会長 山田敏教

私が、まだ青春時代の頃、明治初年に乱を起こして刑死した長州藩士前原一誠にまつわる話を読んでこの言葉に出会い、強く心を打たれた。

「誠実であれば良い。不器用でも良い。他人に理解されなくても良い。言い訳はしない。あるがままの自分を認めてくれる人だけで良い。それもなければそれでもよし。それは己の器量の限界であり、又、相手の器量の限界でもある。仕方ないことだ。」この言葉を不器用な自分なりに都合よく解釈し、いわば開き直って生きてきた。

私の人生はチャレンジの連続であったし、波瀾万丈の今日迄だったと思うし、今からも続くであろうと思っていた矢先の出来事。神殿ふしんの借金も終わり、呑気太平楽に過ごしていた平成十三年の秋、妻から「気にするから」と伏せていたらしいが、再検査の為病院に行くとの事、元来丈夫な体なので余り気

にも止めていなかった。

公立病院での診察の結果、手の施しようがないとの事、即尾道の総合病院に入院と聞かされ唖然とした十一月六日の月次祭の翌日入院。癌と云う字は「病の品が、山ほどある」と書いて、癌と読む」と、良く聞いていたが、子宮癌との事、骨盤、リンパ腺と四ヶ所も転移しているので先生からレントゲン写真を見せられるが鮮明に映し出された癌だった。

抗癌剤の投与が始まり、頭髪はみるみる抜け、冬だからいいが、毛糸の帽子が不憫でならない。後田郷に漏れず、お願いごとめ、おたすけ、上級への日参と入院前から始まった。明けて正月、癌の進行は止まっていなかった。

大教会奥様始め、おたすけは連日続く。一日に、二人も三人もの人。本人(妻)は勿論、同室の人、隣の部屋の患者さんへと、おさづけの取次、それでも抗癌剤の投与で、白血球の数値は極限迄下がっていく。私の友人が、わざわざブラジルから本場のアガリスクを送らせ、持つて来てくれたが、「私には御供(ゴクサン)があるからと、誰か癌で困っている人に飲ませて」と、神様に縋りきった妻の姿に感動したものだ。

一月中旬、治療が放射線に変わり、二月十二日、手術との事。約八時間の手術と聞かされ、妻もショックの様だった。親子での心定め、一月二十六日の大祭、全員で御願いと

めに参拝。私自身も二人の子供もそれぞれ心を定め、必ず助かるの思いで、励ましあった。

一月末、先生からの呼び出しで、手術はしないとの事、手術も出来ない程悪いのかと詰寄ったが、先生からの返事はなかった。二月の初め、又も呼び出し、レントゲンを見ながら説明を聞いた婦人科の先生一同、不思議がつている。なんと奇跡が起きたのだ。すべて消えている。鮮やかに御守護頂いたのである。本人は勿論の事、全員で抱き合せて喜びを共にし、急いで教会での御礼ごとめ、二月二十八日に無事退院。当日初孫の誕生と重ね重ね芽出度い日を迎えさせて頂いた。この身上を契機に、私も子供二人も上級への日参掃除と、嫁は乳母車を押してのパンフレット配りと、すでに二年目の秋を迎えようとしている。私自身も妻の身上を通して我にかえり、大教会百三十七番目の会長にやっとなれたと思っ日々通らせて頂いている。六月二十五日、大教会長様先導での土持ちひのきしんを夫婦共々感激と喜びとで、涙を流しながらスコップ二杯の土の重さを有難く感じ、年祭へ向けて、勇んで通らせて頂く決心を誓い合った。

## 母の真実が伝えられた今日の道

呉福分教会長夫人 佐藤久枝

「思っておせば、私が修養科(一九六期)を修了し、天理より家に到着した時のこと、待っていたように母が、「信者さんが危篤の容態なので、おさづけを取次にすぐ病院へ行くように」との言葉でした。母が原爆を受け、時折倒れることを知っていた私は病院へ行き、病室では、お身内の方々がずらっと病人を囲んでいた。

「Sさん、久枝です。ただいま修養科科より帰りました。おさづけ取り次ぎさせて頂きます。」切迫したその病人の姿、お身内の方々の疲れと悲痛のこもったお顔、泣きそうな気持ちでつとめた初めてのおさづけお取り次ぎでした。病院より帰宅、親神様の前に座る。何も言えなかった。今つとめたおさづけに対する言いようのない心の葛藤をしていた。

一時が過ぎ、母が弱い体で私の側に来て、「久枝、ご苦労さんやったね。今、Sさんよりつかいがあった、おさづけをいただいて、やすらかな出直しやった、との伝言だったよ。よくつとめさせていただいたね。修養科修了、おめでとう」もう……。

母の声はありがたかったです。張りつめた心が、すーっとぬけ、親神様の前で感謝の涙がポロポロでした。

心も落ち着き、おもむろに、生涯たすけ一条の標であるおかきさげを母に見せ、大切に胸におさめてきたおさづけをお取り次ぎさ

せて頂きました。

生涯、布教一条・運び一条の精神だった母も八十七歳で出直し、一年祭をつとめて間もなくのこと、私自身、子宮筋腫の身上切迫の折、主人に涙のおさづけお取り次ぎをいただきました。仕事から帰り、私の顔をのぞく。食事を取らず、夕づとめ、十一下りてをどり、そして、おさづけをお取り次ぎして下さいました。一週間過ぎてより薄皮をはぐように一日一日痛み、膨らみが引いて来ました。今まで病気をしたことのない私にとって、かしかも・かりものがありがたさを感じました。又、主人のおさづけの姿が大きな成人の一段階になりました。

歩みの中に、身上迫る青年の三十五日間のおさづけおさづけ運び中、ごば教祖殿で「ご守護いただいてやるやないか」と、おやさしいおやさまのお声を心にいただいて、青年が待っていると走るようにおちばを後にした日。又、心臓病の方共々におちば帰参の道中、身上異変、近鉄名古屋より憩いの家まで急行。お許しいただいた六回のおさづけお取り次ぎ、おやさまのお膝元に拝した時、度々の意識のなくなるころを、ずつとお連れいただいた事を思えば、有り難い気持ちで胸がいっぱいで、何も言えず暫く頭が上がりませんでした。病院の本人の元気な様子を見て、私自身の成人のお試しだったのだなあと、深く感謝

の念をいただいたものです。

母が託した布教一条の姿を、婦人会の立場の上、次代を担う女子青年を勇め、私も喜ぶいっばいで通らせていただいています。

## 大教会だより

◎ 教会指令Ⅱ (立教百六十五年下半期以降) 任命願

福山 分教会 立教一六五五年三月二十八日承認

\* 前任 田中 一之

\* 新任 田中 隆之

神免 分教会 立教一六五五年九月二十八日承認

\* 前任 石井 幸

\* 新任 石井 守

神昭 分教会 立教一六五五年十一月二十八日承認

\* 前任 開地 俊夫

\* 新任 渡邊 隆夫

海松ヶ岡分教会 立教一六六六年四月二十八日承認

\* 前任 森本 忠平

\* 新任 森本 忠善

吸江 分教会 立教一六六六年四月二十八日承認

\* 前任 赤木 由枝

\* 新任 赤木 素志

三郡 分教会 立教一六六六年八月二十八日承認

\* 前任 貞清 實

\* 新任 貞清 知実



# いきいき人生

## 丸山 孝志さん

(福芦分教会用木、北斗電気工業社長、グリーンラインを愛する会代表)

去る七月七日、七夕の日、丸山さんと私は二十年ぶりの再会を果たしました。丁度二十年前、修養科五〇六期生として三ヶ月を同室で過ごしたのです。本当に懐かしい再会でした。

個人的な事はさておき、今日は丸山さんがお道の精神でいかに社会に広く貢献しているかを紹介したいと思います。



丸山さんは、ベンチャー企業の社長さんですが、もう一つの顔はNPO「グリーンラインを愛する会」の代表でもあります。

氏曰く、「グリーンラインを愛する会とは、「県道二五二号線(福山市水呑町〜沼隈町)」通称グリーンラインは荒廃を極め、忘れられた道路となっていました。しかし沿線は、瀬戸内海国立公園の一部であり、景観に恵まれ住民の憩いの場でもありました。この沿線を守るため、平成十二年にこの会を設立し、一定の成果を得ました。」

そして今回、特別非営利活動法人を設立しました。沿線の緑と環境と安全を守り、住民の憩いの場所、観光の拠点として整備することを目指すのです。又、その活動を通して地域の福祉の向上、青少年の健全育成、社会教育の推進に寄与することを目的としました。

と、熱弁をふるって話してくれました。ちなみに、平成十四



丸山さん(写真右)と対談

年度の事業報告を見ると、定例会を入れて二十一年の活動をしています。又、平成十五年の事業計画も約十回にも及ぶ活動計画がなされています。

バイタリティーあふれるナイス・ミドルの丸山さんですが、そのバイタリティーはどこからくるのか尋ねると、「自分自身がやりたい事をやっているのだから疲れません。仕事とボランティアを両立させながら、イキイキと生きています」。さすがです。そして、「現在の活動は、次へのステップです。今、福山市役所のロビーで、パネル展を開いており、活動の紹介をしています。」とのこと。

又、私事になりますが修養科の時、或る晩、私は四十度の高熱を出しダウン。その時、丸山さんには夜中に三回のおさづけを取り次いでもらい、お陰で翌朝には平熱のご守護を頂きました。遠いのに子どもを思い返し、改めて御礼申しました。

教祖からお教え頂いた御教えをいかに世に映していくか、又、手を携えて歩むかを深く考えさせられた感動的なリポートとなりました。丸山さんの今後の活躍を祈ります

リポーター

かさおか編集部 枝廣隆文・時宗一実

# 七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の限らない子供かわいひ一条の親心と慈愛溢れる御守護のまにまに日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く存じます 加えて一人一人の心の成人に応じ陽氣ぐらしへとお導き下さいます事は誠に勿体ない極みでございます しかしながらせつかくお身へ頂いた豊かさや便利さもそのみに心奪われそれを求める余りお互い傷つけ苦しめ合っている姿又その事に気付かずにいる人々の行く末を思う時同じ子供同士でも果無く感じるがあります ましてや親神様のお心を思うと誠に申し訳なく私たちは「世界一列を救いたい」との思召に少しでも近づきたいものと日日御礼申し上げつつ真実の親心を伝えるべくにをいがけおたすけを通してたすけ一条の上に微力ながらも精一杯に勤めさせて頂いております

その中にも今日の吉日は「たすけの本立て」とお教え下されたおつとめをつとめる定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同たすけ心も一汐に明るく陽気に勇んで座りつとめ・てをどりをつとめて七月の月次祭を執り行なわさせて頂きます 御前には梅雨明け間近で本格的な夏を迎えようとするこの時句今日の日を樂しみに寄り集い同じ思いに伏し拝みお歌の唱和に感謝の意を込める皆の真実の状を御覽下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて子供おぢば帰りが目前でございます 今年は五十回記念に当たりますし西境地地拡張整備ふしんも始まり五十年前に子供おぢば帰りを始めるきっかけとなった伏せ込みひのきしんにも力を入れて下さっておりますので尚一層募集にも力を入れてつとめさせて頂いておりますが何分にも盛夏であり列車団参加からバス・車団参加に切り替わり又〇一五七も多く発生しております 何卒事故・怪我・食中毒等が起こらず喜び一杯の子供おぢば帰りになりますよう御守護の程お願い申し上げます 又夏休み中の学生層に一層心配り丹精すべくしっかりと声掛けして行く所存でございます 更には又地方講習会が済んだ今こそ実際に心尽くし教祖百二十年祭に向け着実に成人の歩みを進めるべく実践項目の完遂を目指し勤め切る所存でございます

何卒親神様には皆のたすけ一条に向ける真実誠の心をお受け取り下さいまして方たすけの上に更なる自由の御守護とお引き寄せを賜りまして一日も早くお望み下さる陽氣ぐらしの世の状に立て替りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



思う事がうま  
く文章に出来  
れば——とよ  
く思う。

昭和五十三年四月、F東警察署司法記事クラブに一人の新人記者がやってきた。京都大学哲学科卒。各社の先輩記者達は彼のことを「テツガク君」と呼んだ。事件、事故発生の一報。現場着はいつも彼が一番。その機動力は誰もが認めていた。だが、彼の労作原稿が手つかずのまま「三箱に入っている事がよくあった。見ると、辞書を片手に読まなければならぬ程、難しい漢字と言葉が並んでいた。

新聞記事の第一条件は誰にでも解かりやすい文章。読者の年齢層が幅広いためだ。「いつ、どこで、誰が、どうした、なぜ」と新人記者はまず警察記事でその勉強をする。彼は全国紙、私はローカル紙、歳は私が六つ上。立場も歳も違つのだが、なぜか彼と気が合った。よく一緒に酒も飲んだ。

飲みすぎて彼のアパートに泊まった事があった。翌日、部屋の隅に積み上げられたスクラップ帳に気付いた。中には「天声人語・編集手帳・余録・産経抄・春秋・天風録」などのコラム記事が貼り付けられ、所々に赤線が引かれ、ページは手垢で黒ずんでいた。

その後、彼は他県は配属された。三年程の付き合いだったが、今でも時々連絡をとり合っている。

時は経ち、今や彼は読売新聞大阪本社の顔である。「今日のノート」の執筆者だ。「井手裕彦」の署名入りで。「努力に勝るものなし」「よくいったものだ」。